

挨拶

岡山県医師会 会長 末長 敦

岡山県医師会の末長です。本日はお休みの暑い中、本当にご苦勞様です。最近、選挙ということもあって皆様お忙しいことと思います。また特にこの1週間、暑くなりまして湿度が高いというのは本当に困ります。みんなはクールビズということで、ネクタイをはずしてというのですが、つむじ曲がりなので、皆がしないのなら締めようと今日はネクタイをしております。と言いますのは、夏、さらっとした格好でいいとなりますと開襟シャツのようなものが楽なのです。女性の方はネクタイなんていうものはあまり考えられないでしょうが、カッターシャツをクールビズとして着ますと襟元が何となく気持ち悪いのです。ネクタイをしない時には開襟シャツを着たいのですが、最近開襟シャツが流行らないものですから、仕方なしにボウタイを締めたりするわけです。

余談はこの位にいたしまして、女医部会については、後でまた小山先生のほうから歴史的な流れについてのお話はあると思いますが、岡山では、確か、平成14年だったかに発足しまして、それから後、県医師会女医部会ということで活動しております。

しかし、県医師会内の各部会には部会だけの動きでは十分ではないということで、各専門科の場合、たとえば眼科部会では別に眼科医会というものを結成して活動しております。同様に、皮膚科でも整形外科でもまた内科あるいは外科でもそのような形でやっております。

県医師会の中の部会の形としては、例えば外科、整形外科、眼科、婦人科など各専門科の方が集まった専門科の部会というのがあります。それ以外には救急であるとか災害であるとか労災であるとかを取り扱う部会というものもあります。特殊なものとしては交通事故医療を取り扱う自賠責部会といったものがあります。女医部会は、そちらの範疇に属するものと考えられます。

日本医師会が女医部会を結成したのを受けて、岡山県医師会でも女医部会が結成されることになりましたが、女医の方を集めての部会というものが正式に結成されるまでに、何年かかかって、やっと正式に発足することになったということです。

最近、若い女医さんの場合、はっきり自分の主張をされます。このことは、色々な意味で非常にいいことだと思っております。女医さんが仕事を続けるうえで、育児に関する事、特に託児所が問題になると思います。このことは看護師さんと共通の問題として取り組まなければならないし、最近、そうしたことに対する意識というものが高まってきてはいますが、各病院のほうでも予算の関係で十分な対応が出来ないのが実情です。

なかなか動かないという状況ですが、そうしたものを後押しして動かすためには、女医部会からも、主張をして頂ければ、ある程度そちらに対するプレッシャーというものになるのではないかと思います。そういう意味で、ぜひ色々な提言をしていただきたいと思います。あまり言われますと執行部として困ることもありますが、出来るだけのことはいたしたいと思っていますのでよろしく願いいたします。

女医部会の総会ということ、女医会が発足するということに対して簡単ではございますがお祝いの言葉とさせていただきます。おめでとうございます。